令和３年度第２回千代田区商工振興連絡調整会議 議事録（要約）

■日　　時：	令和４(2022)年３月 25 日(金)　14:00～16:00
■会　　場：	千代田区役所　　４階　４０２、４０３会議室
■出席状況：	出席委員 11 人
■千代田区：	地域振興部長、商工観光課長、商工振興係長、商工融資係長、観光・地方連携係長、商工振興担当係長、商工振興係担当者
■議　　題：	（１）改定商工振興基本計画の骨子案について （２）その他

●…委員発言

（議事要旨）

１　議事

（１）　改定商工振興基本計画の骨子案について

＜①骨子案の概要及び基本方針１について事務局から説明＞

（計画名称、基本理念について）

●観光ビジョンを統合することも踏まえ、計画名称を「産業振興基本計画」に変更することに対して、賛意を示す。しかし、基本理念案にある言葉のうち「ちよだの暮らしを形成する産業まちづくり」がどういうことなのかイメージがつきにくい。暮らしと産業のつながりをイメージできるようなフレーズだとよいのではないか。

●「ちよだの暮らしを豊かにし、まちのステイタスを形成する」ということだと思うので、適当な言葉があれば、変更をお願いする。

商工振興担当係長）理念については文言調整をする。

座長）計画名称については、上位計画はちよだみらいプロジェクトというやわらかいタイトルのため、本計画についても、サブタイトルなどでやわらかい言葉があれば良いと思う。

（SDGs 達成に向けた取組み支援について）

●SDGs に関わるような新しい産業が生まれつつあるため、スタートアップ支援の中や他の部分でも結び付けて考えていけたら良いのではないか。また、持続可能な社会の実現には地方の活性化も必要になってくるため、地方連携とも関連している部分がある。SDGs 達成は、今後千代田区にとって非常に重要であるため、より踏み込んで計画に盛り込むことができたら良い。

（オンラインでの経営相談やセミナーについて）

●施策・事業７の経営相談については、オンラインでの支援も今後必要となってくるのではないか。そのためには、オンラインを活用できていない中小事業者のオンラ

イン対応支援も含めて考えていく必要がある。移動に時間をかけられない方にとっても、オンラインで経営相談を受けたり、セミナーが受講できたりするようになれば良い。
コロナ禍でリモートワークが広がり、多くの方に新しい技術が浸透していることから、チャンスであると考える。

商工振興担当係長）事務局内でも計画に記載できないか検討する。

（秋葉原の各種団体と行政の連携について）

●秋葉原には新しいことをやっている若い人や団体が多い。例えば、区の中で秋葉原の治安改善のための「AKIBA 安全・安心プロジェクト」が発足し、その推進のために地元のコンセプトカフェやメイドカフェが新たに団体を立ち上げている。このような団体の活動内容も計画の中にうまく要素として取り入れるのが良いのではないか。以前は行政の動きの中に秋葉原の民間企業や団体がうまく入り込めず、地元と行政の動きが一緒になるのが難しかったが、現在は、秋葉原観光推進協会をはじめとして様々な団体があり、秋葉原のまちが１つになってのブランドとなっていけば、秋葉原の魅力を国内、海外によりアピールできる。そのため、若い人たちや団体の動きもうまく計画の要素としていれていきたい。

座長）計画の中のどの基本方針に位置づけるのが適切なのかなども含め、いただいたご意見の要素の入れ込みについては事務局で検討していく必要がある。

（補助金、助成金自動診断システムについて）

●施策・事業案の中にある補助金、助成金自動診断システムについて、区の補助、都、国の補助メニューは日々更新されていくものだが、どこまでの範囲のメニューで自動診断ができるのか。

商工振興係長）既に開発されたソフトがあり、国、都、区の補助も含む支援メニューから利用者の会社にあった支援を自動で抽出できるものとなっている。診断だけであれば費用は発生しない。しかし、支援メニューがわかったとしても、申請方法がわからない、どのように活用すればよいかわからない事業所も多いため、別途費用が必要ではあるが、同システムの中で診断結果に基づいた申請サポートも可能である。

座長）現在、渋谷区の補助金・助成金自動診断システムが既に始まっており、正社員数や実施を検討している取り組みなどを回答することにより、受給できる助成金を自動で診断する。同様のシステムの千代田区版をイメージしていただければと思う。

（スタートアップ支援について）

●アクセラレーションというワードが計画に記載するほど一般的であるかどうか疑

問を持った。確認をお願いしたい。

商工振興担当係長）支援の対象として、一般的な事業所というよりスタートアップの方々を想定している。そのような事業所の方々にはなじみがあり認知されている言葉である。また、スタートアップ支援をしている他の自治体でも“アクセラレーション”というワードは使用されているため、問題ないと想定される。しかし、計画を一般の事業所の方々に広めていくという視点も重要であり、注意書きなどで説明が必要である。

●創業の支援、各種支援について、商工会議所も本計画に沿った取組みを展開していきたい。開業した方の商工会議所入会数について、千代田支部がもうすぐ２３支部中１位になる予定。５年以内に開業した事業所の方々の傾向として、最近は、インキュベーション施設での開業、自宅での開業が増えている。新しく開業した事業所を支援するためのコミュニケーション方法として、登記を見て訪問して支援をすることも多かったが、近年はこうした手法が難しいケースも増えているので、新しい支援の方法についての分析も含め、区に協力していきたい。

＜②基本方針２について事務局から説明＞

（商店街と大学の連携支援について）

●商店街と大学の連携支援について、現在、神保町でも神保町古書店連盟や出版社などと大学との連携の動きが少しずつ見えてきている。今後の連携支援としては、具体的にどのようなことを展開していくのか知りたい。

商工観光課長）今後の展開については、これから具体的に検討していくが、商店街と大学のゼミ、教授と引き続き一緒に取組みを進めていきたい。大学と関係を継続しながら、単発で終わらないリレーションシップを作る仕組みができればよいと考えている。また、商店街の若手グループの支援も視野に入れており、大学生が商店街での商売に興味を持っていければ良いと考えている。若手、女性、大学などいくつかの属性を切り口にして、補助金だけでない支援についても、今後具体的に検討を進めていきたい。

（グルメのまちとしての振興について）

●新しいムーブメントとして、世界一のグルメのまちというイメージづくりを提案したい。グルメをより一層 PR していけば世界中から人を呼び込めるのではないか。施策・事業の 11、12 等で、食のまちづくりについて検討していただければと思う。

商工観光課長）グルメを用いたまちづくりは、観光や地方連携についても関連があり、基本施策に横串を刺すような要素となるのではないかと考えている。

●東京土産ではなく、ちよだ土産のようなものがあれば良い。コロナ禍でテイクアウトする客が増えている機会を活かし、区内のせんべいや和菓子屋などのお土産となるものを売っている事業所の PR に力を入れて、来訪者が買っていこうという動きが

でるように、まち全体で協力して何かできたら良い。

商工観光課長）現時点でも、さくらベーカリーのクッキーや観光協会とリラックマのコラボグッズ等があるが、千代田の魅力の１つとして食べ物を位置づけ、商工会議所、観光協会、まちみらい千代田などの皆様と協力して何かできれば良い。

（組織の高齢化への対応支援について）

●施策・事業の５、高齢化への対応支援としては、リーダーが若手の団体の場合、補助率が上がるというイメージでよいのか。他の自治体でも同様の取組みは行われているのか。また、若手の年齢の線引きはどうなっているのか。

商工振興担当係長）来年度に東京都が若手・女性リーダー応援プログラムを実施する予定であり、50 歳未満の方を対象としている。何歳をもって若手とするのか、事業開始までには皆様のご意見を受けて検討していくが、計画自体には年齢等の諸条件については記載せず、事業の内容をメインに記載していく予定。

商工振興部長）加えて、本施策は、今まで団体を牽引し、活躍してきた高齢の方々を軽視するものではないとご認識いただきたい。

（アルバイト就労希望の学生とまちの個店とのつなぎ合わせについて）

●千代田区では大学に通う学生がいて、まちなかでアルバイトをしている学生も多く、とても良いことだと感じている。学生たちがアルバイト等を通じて日常的にまちと関わることで思い入れも強まっていくと考えられるので、区内で働きたい学生とアルバイトを募集する区内事業者がうまく出会えるようなシステムがあればよい。

●複数大学が共同で、神保町で働きたい学生をあっせんする仕組みがあればよいと自身のテナントの店長と話していた。その後、区内大学に相談をしたところ、実際に検討を始めているということを聞いた。千代田区全体のブランド力、安全で安心の地域というイメージがあり、働きたい大学生にとっても千代田区で働くというのはアドバンテージとなる。ぜひ行政と 11 大学の連携の中で何か進めていけたら良い。

商工観光課長）地域を盛り上げるきっかけとなることも期待できるので、ぜひ何か仕組みづくりができたらと思う。しかし、法律上有料職業紹介には許認可申請が必要であり、行政が支援するにはどのようなスキームが良いのか検討が必要である。

座長）コロナ禍で登校率が２割程度となってしまっていたが、４月からは対面授業率も上がり、以降まちに大学生が溶け込む機会が増加すると考えられるため、今後は大学生との連携も行いやすくなるのではないか。

＜③基本方針３について事務局から説明＞

（観光消費額増加への取組みについて）

●観光協会で今後目指していきたい内容とマッチしていて、計画の内容として良いと思う。観光を産業として考えると、来訪者の消費額を増やしていくことが重要であ

る。特に、宿泊客の区内消費額は、１泊の場合でも当日の昼間、夜、次の日と、日帰り客の３倍以上になることも予想され、宿泊の視点は重要であり、今後ホテルと連携していくことが必要である。

座長）コロナ渦になる前にインバウンド向けに開業した宿泊施設も多いと思うが、コロナ禍での宿泊稼働については何か情報はあるか。

●多くの宿泊施設で客数が減少していると聞いている。大きなところではグランドパレスが営業終了するなど、特に外国人旅行客の比率が高かったホテルでは多大な影響を受けていると想定される。一方で、区内には日本でも有数の高級ホテルが多く、資本が盤石であることから、コロナ禍においても持ちこたえていると考えられ、インバウンドが戻り次第、地域経済に寄与すると考えられる。

（観光資源の発掘・創出に向けた取組みについて）

●私は最近、秋葉原のメイドさんによる日枝神社、東京大神宮、神田明神に関わるクイズの動画コンテンツを制作した。千代田区の歴史や文化などを絡めた内容で、千代田区のことをよく知らないと回答も難しいものとなっており、こういったものも千代田区への関心を引くきっかけとなるのではないか。必ずしも聖地巡礼にこだわる必要はなく、今ある千代田区の魅力的なコンテンツをうまく用いて掘り起こすことが重要である。今後のインバウンド需要も見越し、外国人が興味を引きそうなことを分析し、クイズなどを通じて、外国人に千代田区の魅力を訴求していければ良いと考える。

（ウォーカブルまちづくりデザインと歩調を合わせた街なか観光推進の取組みについて）

●観光協会ではガイドツアーを様々やっており、今年度は自転車で区内を１周するツアーを開催した。自転車ならではの視点でまちを楽しむことができたことから、ウォーカブルなまちに加え、自転車も走りやすいまちづくりを進めていっていただきたい。

●回遊性を高めるためには電動キックボードなど活用の仕組みもあればよい。地方の方々は距離感の把握が難しく、区内の様々なスポットに歩いていけることを知らない。歩いていけることを伝え、移動のためのお手伝いとして、電動キックボードなどが活用できれば面白いのではないか。

●また、ウォーカブルなまちという視点では、秋葉原では電動トゥクトゥクの活用についても取組みを進めている。ガソリンではなく電気で動くため、SDGs における環境の取組みにもつながる面がある。

●ウォーカブルなまちとして、子どもが遊べるまちとなるのは良い。今まで、雪まつりのようにたくさんの子どもが遊びにくるイベントはあったが、普段はビジネス街のイメージが強く、子どもを連れていこうと考える人は少ないのでは。しかし、子どもの遊び場の活用によってファミリー層が遊びに来ることで、夜間人口の増加に

もつながるのではないか。

（観光防災について）

●今後アフターコロナを見据えて、観光防災の視点も重要であると考えている。回遊中の災害時の防災について、観光客に対して取組みがあればよい。何か検討していることがあれば教えてほしい。

商工振興担当係長）外国人観光客向けの防災に関しては、現計画の事業として５年間実施しており、災害時の情報提供のインフラを整えているので一旦終了という整理をしている。

（新たな観光資源の発掘・創出に向けた取組みについて）

座長）ロケ地の誘致については、ロケーションサービスやフィルムコミッションなどの活動で、千代田区の魅力ある資源を活かして、今まで以上に取り組んでいければよい。

●観光協会でも、マスコミやドラマ・アニメの制作会社からも問い合わせをいただくので、様々困難は多いが、対応していかなければいけないと認識している。

＜④基本方針４について事務局から説明＞

座長）コロナ禍で地方連携の取組みが制限された面もあるが、リモート環境が整った方々も多いという良い面もある。自身の研究室での取組みでは、屋久島の茶農家とリモートで何回も打合せをし、連携してお茶の販売や茶製品の販売などを進めることができた。コロナ禍で始まった新しい流れも踏まえ、民間事業者も含めて、今後一層連携が進展していければよい。

●商工観光課長）現在区が行っている地方連携事業には、行政が主体として取り組む事業、民間事業者が主体となって取り組む事業への支援の２つがある。また、自主的に地方連携をしている企業や団体もある。ちよだフードバレーネットワークだけでなく、他団体への支援も進め、区全体で地方支援の文化を醸成できたら良い。

（２）　その他

＜秋葉原 DX エンターテインメント協会の活動（案）について関係者より説明＞

＜今後のスケジュールに係る説明＞

●（特に意見なし）

２　閉会